

令和2年度

海南小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎・基本の定着と児童の思考力を深める授業の実践
- ②学校と家庭との連携による家庭学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員
大黒 依子

委員 研修主任 吉田由美 特別支援教育コーディネーター 小坂千絵
 教務主任 松岡功 下学年推進員 元木理恵 上学年推進員 富田裕希

校長 村田 治久

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

管理職・教員相互による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○向上心をもって学習にまじめに取り組む児童が多く、漢字の読みについては89%、書きについては93%、計算等については88%の児童が昨年度の成果指標を達成した。 ●文章を的確に読み取る力、指示語の示す言葉を正しく捉える力に課題がある。算数では、図形分野が苦手な児童が多い。四則計算、表とグラフの分野にも課題がみられる。	・具体的な目標をもって毎日の学習に取り組む、基礎的・基本的な知識・技能を着実に習得することができる。 ・自分の伸びを振り返り、自覚することができる。	・漢字ミニテストや音読カードを継続して行う。学期末に、漢字・算数確かめテストを実施し、漢字の読みの正答率を90%、書きを80%、計算等を85%以上とする。 ・算数単元プリント等で、計算方法、概念、考え方の定着を確認し、個別指導を計画的に行い充実させる。特に、図形分野は繰り返し振り返りを行う。	新出漢字の早期習得と共に、既習漢字・同音異義語・同音異字語・仮名遣い・ローマ字・文法的事項に継続して取り組む。 算数の単元プリントを活用し、基礎・基本の定着と問題を読み取る力をつける。	・漢字の読みの正答率93.3%、書きの正答率86.9%で、目標を達成することができた。 ・算数テストについては、正答率80.8%で、目標の85%には届かなかった。割合を使った文章題、複雑な面積の求積、単位換算、概数、四則計算などに課題がある。	・引き続き、漢字の読み書き、特に同音異義語・同音異字語・仮名遣い・ローマ字に継続的に取り組んでいく。文章の読み取りが的確にできるように、語彙力をつけていく。 ・問題解決に必要な情報選択、考え方を説明すること、文章題において内容を的確に読み取ることに力点をおいて、確認テストを実施する。 ・学力の底上げのために、個別指導を細やかに行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達の意見を聞き、自分の思いや考えを進んで発表できる児童は多い。 ●自分の考えを理由を付けて分かりやすく説明する力を伸ばすことに取り組んできたが、昨年度は成果指標を達成することができなかった。必要な情報を選択して表現し、課題を解決していく力にも課題がある。	・相手の話をよく聞き、目的に応じて理由や根拠を明らかにしながら、自分の思いや考えを話したり書いたりして表現することができる。	・「学習マナーを磨こう」を実践し、自分の考えを書いたり発表したりする機会を、発達段階に応じて意図的にとる。学期末には全教職員が振り返りを行い、指導力の向上を目指す。 ・研究テーマに沿った研究授業を全職員が実践する。	ペアやグループ、全体の場などで、一人一人が発言したり表現したりできるように、授業を組み立てる。ノートに自分の思いや考えを書く活動を取り入れる。	・自分の考えを理由をつけて表現する力をつけるために、目標80%以上を目指して取り組んできた。その結果82.3%を達成することができた。 ・研究テーマに沿った研究授業や研究発表を各学年や特別支援学級で行うことができた。	・思考力を深めるためには、人の話をよく聞き、目的に応じて理由や根拠を明らかにしながら、自分の思いや考えを話したり書いたりして表現することが大切である。そのために、引き続き、自分の考えを理由を付けて分かりやすく説明する力を伸ばすことに力を入れていきたい。 ・来年度は研究大会を控えていることもあり、5月ごろから研究授業や研究会を実施していきたい。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○昨年度の取組で、家庭学習時間や読書目標冊数を達成する児童が増えた。全体学習や班学習で積極的に意見を言える児童も増えている。 ●家庭学習時間や読書量は増えているが、学習内容や選書には偏りがある。また、個人差もある。	・「学習の手引き」を活用し、自主学習や家庭学習の習慣を身に付けることをとおして、苦手な学習を補い、得意な学習の力をさらに伸ばしていくことができる。	・自主学習や家庭学習の習慣化・質の向上を目指す。 ・読書タイムの継続とお薦めの本の紹介をとおして読書の幅を広げる。 ・目標提示と振り返り、単元の学習計画を明示し、主体的・自覚的な学びのある授業に取り組む。	海南式自主学習の手引きを作成し、自主学習の習慣化と内容の充実を図る。町立図書館と連携し、選書の幅を広げる。短時間でもよいので、授業の振り返りを必ずとるようにする。	・家庭学習時間達成児童は、84.2%で、目標を達成した。読書目標冊数達成児童も82.1%と学期が進むにつれて向上した。毎時間の目標提示はよくできているが、振り返りの時間が十分確保できていないという反省点がある。	・自主学習の手引きを活用し、宿題に加えて自主学習の習慣化と内容の充実を図る。 ・毎日10分間の読書タイムの確保、お薦めの本の紹介、読書目標冊数設定の共通理解や目標達成児童100%を目指す。 ・主体的、自覚的に学習する児童を育成するために、発問の工夫、毎時間の授業での目標提示と振り返りの時間の確保、学習形態の工夫などに取り組んでいく。

令和2年度 学力向上ロードマップ



